

感謝祭 — Thanksgiving Day —

2016年11月11日(金) つのぶえ保育園

【初めての 感謝祭】

今から およそ400年前の1620年の秋、イギリスの清教徒（ピューリタン）達が 信仰の自由を求めて、『メイフラワー号』という船に乗り、祖国を離れ アメリカ大陸へと渡りました。果てしない希望と夢にあふれ 移り住んだはずが、生まれて初めての 慣れない土地での生活は想像を絶するほどに困難で 過酷なものでした。何もない広大な荒野を目の当りにする日々は、彼らを底知れぬ不安に陥らせ、やがて 心身ともに すっかり衰弱していきました。出発の際に持ってきた食料は底をつき、一人また一人と 病に倒れ、命を落とす者達も 増えていきました。その中で、神様への讃美を忘れず 祈りを懸命に献げていた清教徒達でしたが、日を追う毎に新しい生活への希望は失われ、生きることへの絶望感ばかりに 苛まれていってしまいました。そんな様子を アメリカ大陸の先住民（インディアン）達は 遠くからずっと見守っていました。食べる物がなくなってしまい、嘆き苦しみながら日に日に弱っていく清教徒を とても心配しある時 とうとう 近くまで行って声をかけ、自分達の食べ物を与えました。それだけではなくこの土地に適した穀物や野菜の苗や種、その育て方や収穫方法、また、ここでの生活のために最も大切で必要な “神様が創られた自然と関わって生きる術” を指導しました。清教徒達は、最初は とても驚き 戸惑いましたが、まっすぐなインディアン達の 心温かで誠実な姿に喜び、分け隔てのない深い愛に 少しずつ 心が開かれていきました。ゴツゴツの荒れ野を耕した地に蒔いた苗や種たちが 季節が移る中で 驚くばかりの多くの実りとなりました。生まれて初めて自分達の手で育て 無事に収穫できた嬉しさと素晴らしさに、清教徒達は 心から感動しました。そして、今までずっと自分達を支え 助けてくれたインディアン達に 皆で お礼を言いました。それから、ここまでの日々、命を守ってくださり、こうして 数々の恵みを与えてくださった神様へ「ありがとう！」の想いをこめ 皆で一緒に心を合わせて 感謝の礼拝を献げたのでした。これが始まりとなり、11月の第4木曜日に 収穫を感謝する礼拝が 世界中のキリスト教会で守られ続けています。私達が生かされているということは、身体の糧である食べ物だけでなく心の力や希望の光となる 周りの物事や人との出会いや、その関係をも 与えられていることに改めて気づかされます。この世のすべてを創造され、日々 ふさわしいものを ふさわしい形で与え満たしてくださる神様の 深い憐れみと恵みに想いを馳せ、共に存在し合う喜びを感謝に変えながら これからもひと時ひと時を分かち合い 支え合い 優しく生き合う者が在りたいです。

【つのぶえ保育園の 感謝祭】

皆で持ち寄った色鮮やかな野菜や果物が テーブルいっぱい並べられ、甘い香りが漂う中で与えられている恵みを実感する喜びと共に 今年は『心の糧』に想いを傾け 同じ時を生きる者として 神様によって与えられた、つのぶえを通しての出会いを感謝するひと時を過しました。保育園の子ども達と先生達全員の他に お招きした山口さんや成田教会の方と共に、心静かに礼拝を献げ、その後には お互いの存在を喜び合い「いつもありがとう」「一緒に嬉しいね」の心を、歌・合奏・ダンス・お手紙など、それぞれのクラスに沿ったかたちでの プレゼントを贈り合いました。どれも可愛らしく想いのこもった贈り物で「ありがとう」が 溢れていました。中でも サプライズで行った 先生達によるハンドベルの演奏には、「すごーい！」と大喜びで大きな拍手と歓声がいっぱいでした。こうして、同じ時を分かち合い、今を過せることこそが

何よりの生きる喜びであり深い感謝だと しみじみ実感しました。持ち寄った野菜と果物を 給食の先生に調理してもらい、今日は全員、ホールでの昼食でした。豚汁も炊き込みご飯もほんとうに美味しく、皆の笑顔があふれた 楽しい会食となり、心もお腹も満たされた 温かな感謝祭となりました。その様子を 写真に撮影して掲示しましたので、是非ご覧ください。世界中の人々の心に神様の平和と愛が注がれますようにお祈りいたします。(石田 記)

